この学校では、こんな学びが始まる

農業と畜産の2軸で育てる「稼げる次世代農業」人材

アドバンスト・エッセンシャルワーカー等育成支援

鳥取県立倉吉農業高等学校（くらよしのうぎょう）

全日制／農業科

類型1

この改革が必要な背景

- 鳥取県では、農業産出額のうち畜産が41%を占めており地域経済の重要な役割を担う一方、過去５年間で基幹的農業従事者数は約32%減少、65歳以上の占める割合は79.6%と高く、**農業の担い手不足と高齢化が深刻**
- 農業の古いイメージを**「クリエイティブで最先端な産業」「稼げる産業」として再定義**し、経験や勘だけではなく、**データと技術で経営を考えられる次世代の農業人材を育成**することが急務

事業概要（学びの変化）

【スマート農業軸】
データに基づき意思決定と検証ができる経営

- ✓ １年次には、農業の基礎を体験しながら、自動環境制御装置や遠隔監視カメラで**田畑や施設の状態を見える化**
- ✓ ２年次には、GPS自動操舵トラクターやドローンなどで得られた**データを収集・分析**し、飼育・栽培に役立てる手法を学ぶ
- ✓ ３年次には、収穫量や品質との相関関係を分析し、**作付けや経営計画に活かす「データ駆動型農業」を実践**
- ✓ 「作業ができる」だけでなく、**「データに基づいて判断・改善・経営できる」**人材を育成する

地域総がかりで育てる、次世代農業人材

- ✓ **鳥取大学の研究者**や**農機メーカー**、**JA**、**先進農家**（**スマート農業プロフェッショナル**）が**実習や探究学習を支援**。ドローンや自動操舵農機などの先端技術を活用し、地域農業を支える実践力を育成する
- ✓ **近隣の農業大学校と連携**し、**高校３年＋農大２年の５カ年一貫教育カリキュラムを構築**。課題研究を農大進学後も継続できる仕組みとし、20歳で次世代農業・畜産の持続可能な経営を牽引できる人材を育成
- ✓ 連携大学の総合型選抜等における新たな進学ルートの開発

【スマート畜産軸】
和牛王国鳥取を支える畜産人材育成

- ✓ １年次には、伝統的な飼育・調教技術に加えて、遠隔監視や発情探知等を**スマート機器を使いこなし**、牛の変化を**デジタルで記録・確認する基礎を習得する**
- ✓ ２年次には、飼養管理の改善プロセスを論理的にまとめ、出品候補牛の選定や日常的なブラッシング・調教の**基礎的管理技術を習得する**
- ✓ ３年次には、「経験と勘」だけに頼ってきた発情兆候や分娩予測を、センサーが検知するデータを**科学的に読み解く力を養う**
- ✓ 全国和牛能力共進会など全国大会に向け**更なる調教技術や体型管理の高度化を図り、全国入賞を目指す**



育てて終わりじゃない、
加工・販売までつなげて"稼げる農業"を学ぶ

- ✓ 食品製造によるHACCP（食品の衛生管理手法）を意識した加工や地域ブランド化、ネット通販ルートでの販売、WEBアクセス解析にも取り組むなど、**売るための工夫を考える**
- ✓ 生物科と食品科が協働し、学校全体で「スマートフードチェーン」をつくることで**地域で稼げる農業ビジネスを学ぶ**

＜生徒の１日の流れ（例）※生物科畜産コース３年Aさん＞

【11:00】「畜産」において、自動調整換気システムのある牛舎にて、除糞作業や牛体管理を行う



【13:30】「総合実習」において、超音波妊娠診断装置で胎児の動きや大きさをモニターで観察する



【15:00】分娩前の牛の出産兆候を警備員へ知らせるため牛の行動を管理室のモニターに映す

【17:00】寮において、当番実習として待機し、警備員から分娩開始予想の連絡を受けて出産介助に向かう

高校生の未来の姿（指標の例）

農業関連県内企業等への就職や農業系大学、農業大学校への進学者の割合

(現状) 41% ⇒ (R10) 52% ⇒ (R13) 63%



他校への普及方策

スマート農業・スマート畜産のカリキュラムや教材の展開、施設や設備を「県域オープンラボ」として他校の探究活動に利用できるようにする 等

主な連携機関

鳥取大学、鳥取県立農業大学校、JA、鳥取県畜産試験場、農林水産部、倉吉市、地元企業 等

（出典）都道府県の提出書類及び生成AIにより作成した画像をもとに文部科学省において作成